

2026年3月期 第1四半期 Web 決算説明会 主な質疑応答記録

日時：2025年7月29日(火) 12:00 ~ 12:45

出席者：取締役 常務執行役員 経営企画本部長 井上 智弘

< 棚卸資産評価損について >

Q: 棚卸資産評価損の金額を整理いただきたい。2025年度1Qに電子先端材料セグメントでは多結晶シリコンで4億円の評価損を計上したのに対し、前年同期は1桁億円後半の戻し入れだったため、10億円強の減益要因となった、という理解でよいか。また、その他セグメントでは2025年度1Qで約6億円の棚卸資産評価損が発生したということだが、対前年同期比ではどれくらいの減益インパクトがあったのか。

A: 多結晶シリコンの評価損については理解の通りである。その他セグメントでは2025年度1Qに約6億円の評価損を計上したのに対し、前年同期が約8億円の戻し入れだったため、約14億円の減益要因となった。主な要因は石炭。

< ICケミカルの販売動向について >

Q: ICケミカルについて、拠点別(台湾・日本)の出荷状況を教えてほしい。

A: 台湾は増収増益。全体の数量は若干落ちているが、工業用IPAを減らして、高収益の電子工業用高純度IPAの数量を増やしたことによるもの。日本は輸出を含め、販売数量が増え、増収増益。

< 営業利益増減分析について >

Q: 説明資料P8「営業利益増減分析」について、その他の△46億円の内容を教えてほしい。

A: 主な要因は棚卸資産評価損の増減△25億円、賃上げ等による労務費の増加6億円、物流費の増加3億円。2025年度2Q以降は棚卸資産評価損が解消されるため、数値が圧縮されるとみている。

Q: 2025年度通期計画上、その他は△37億円だったが、棚卸資産評価損が解消されるので計画どおりの金額に落ち着くと考えてよいか。

A: そのように判断しているし、コントロールが可能な部分なので、それくらいに抑えたいと考えている。

以上